

自主・自立の旗を立てる！

「収益事業係」が新設されました

2026年度より、知床財団の事業部に「収益事業係」が新設されました。

夏号では、収益事業係がどのような経緯で立ち上がり、日々どんな業務を担っているのかをご紹介します。

活動レポート

収益事業係 萱野真未
普及企画係 米田紗衣



知床のファンを増やし、
さらに知床を楽しんでもらうために

オリジナルグッズの企画・開発・販売やレンタル業務

知床財団は、オリジナルの雑貨やアウトドアグッズを企画・開発・販売しています。私たちが管理運営している施設での販売はもちろんのこと、卸販売やネットショップの運営なども独自で行っています。私たちは、これらの「グッズ」が知床財団を知っていただく入口のひとつだと考えています。知床財団のことは知らなくても、デザインや機能性に魅力を感じて手に取ってくださる方や、お土産として受け取ったグッズをきっかけに知床財団を知る方もいます。

私たちが全国各地を訪れて知床財団の活動や知床の魅力をお伝えする機会には限りがあります。しかし、グッズは私たちの代わりに知床や知床財団の存在を伝えてくれます。

オリジナルグッズを手にとって

くださった方が、それをきっかけに「知床に行ってみたい」「知床財団を応援したい」と思ってくださったら、とても嬉しく思います。

これからも、みなさまに「手に取りたい」と思っていただけの魅力的な商品を開発・販売し、お届けしていきます。

また、レンタル業務では、知床にお越しいただいた方の旅の充実を目的に、各施設でレンタル用品の貸し出しを行っています。

ヒグマ撃退スプレーをはじめ、雨の日の長靴や、沢登り用のウオーターシューズなど、近年ではレンタル用品の種類も増えてきています。利用者の需要に合わせたレンタル用品の選定や管理を行っていくことも収益事業係の大切な役割となっています。

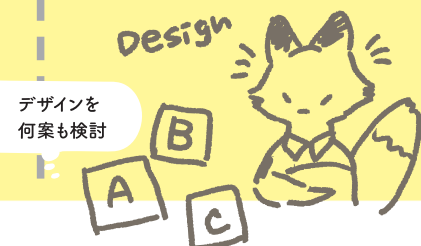
SEEDSご愛読のみなさま、
いつもご購入ありがとうございます！

知床財団オリジナルグッズ
shi Re toko tee 2026 が、できるまで

01 職員や来館者の声を拾って
「こんなものがあつたらいいね」「こういう柄のものが欲しい」など職員や来館者のみなさまの声をもとに商品づくりをしています



02 商品開発開始
素材・デザイン・数量・価格の検討。知床のアクティビティで便利に使えるものや、旅の思い出として購入できるかを一番に考えます



03 何度もやり取り
デザイナーや企業とのコラボレーショングッズを制作する際には、担当者とは何度も打合せを重ねながら進めます



04 実際の使い心地をしっかり確認
完成後はスタッフが着用し、実際の使い心地などもしっかり確認しています



shi Re toko tee 2026 は、
この冊子 P12「知床財団購買部」で紹介中！



知床財団の業務には、国や自治体などから引き受ける受託事業が数多くあります。このような「公益目的事業における収益」は知床財団の経常収益のうち約7割を占めています。当然ですが、これらの事業費は該当する事業に充てられる経費です。

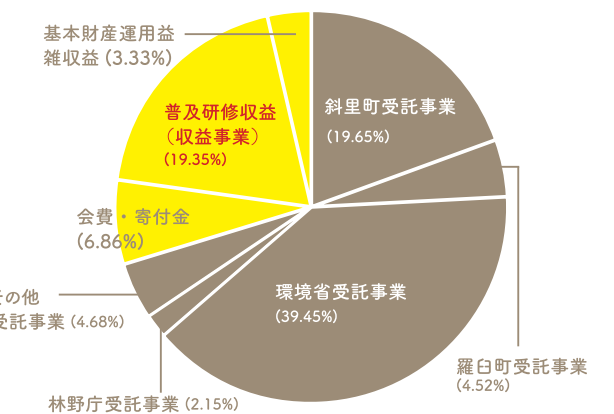
一方で、受託事業以外の、知床の自然保全活動や、普及啓発活動、独自の調査・研究などを行うためには、自主財源が欠かせません。会員の皆様の会費や寄付はもちろん、知床財団のオリジナルグッズを含む「物品販売」や「レンタル」、「講演・実習・研修対応」などによる収益は、知床財団の活動を支える重要な収入源となっています。

独自事業のさらなる強化と拡大を目指し、またこれまで以上に販売事業や講演、研修対応に力を入れるため、専任の「収益事業係」が誕生しました。

今回は、収益事業係の業務内容を「物品販売・レンタル」と「講演・実習・研修対応」の二つの柱に分けてご紹介します。



知床財団スタッフがパッケージをデザインしたオリジナルドリップコーヒー



知床財団の経常収益の内訳(2025年度)



知床財団 活動日記

知床財団のスタッフは普段どんな仕事をしているの？
あまり知られていない日々の取り組みをご紹介します。

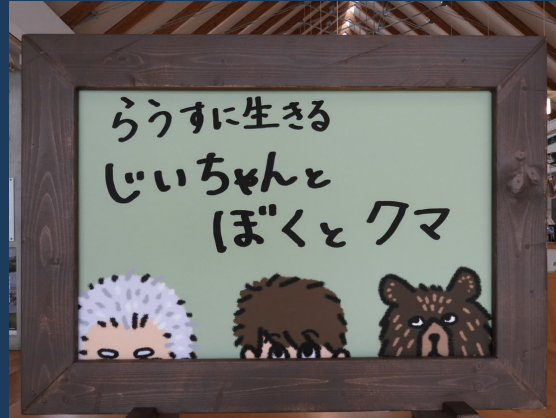
知床のリアルを伝える紙芝居

「らうすに生きるじいちゃんとぼくとクマ」完成！

このたび、ヒグマとの関わり方を考える紙芝居『らうすに生きるじいちゃんとぼくとクマ』を制作しました。この紙芝居は、知床の豊かな自然を守り、その魅力を伝える取り組み「シレコプロジェクト（羅臼町事業）」の一環です。

この物語は、羅臼町で実際に起きた事例をベースにしており、ヒグマの生息地で守るべきルールやマナー、そして知床での人とヒグマのリアルな距離感を分かりやすく伝える学習教材です。知床の「価値」を次世代へつなぐため、今後はイベントや環境学習の場での読み聞かせ会も予定しています。

紙芝居を通して、人とヒグマのより良い距離感について、地域の皆様や観光客の方々と一緒に考えていけたら、これほど嬉しいことはありません。



安心してアクティビティを楽しめる環境づくり を目指して～ココヘリ無料レンタル開始～

知床自然センター・知床羅臼ビジターセンター・ルサフィールドハウスでは、クマ撃退スプレーをレンタルされた方を対象として、位置情報発信サービス「ココヘリ」の無料貸出を開始しました。この取り組みは、総務省地域社会 DX 推進パッケージ事業の一環として、斜里町、INCLUSIVE Holdings 株式会社、AUTHENTIC JAPAN 株式会社との協力のもと実施しています。

「ココヘリ」は専用発信機を携帯することで、バックカントリーで万が一、怪我や遭難などで救助が必要になった際に、専用受信機を搭載したヘリコプターやドローン、地上捜索隊がココヘリの電波を受信し、該当者の位置を特定できるサービスです。迅速な発見・救助につながることが期待されています。

今後も安全に関する情報発信を行うとともに、利用者の皆さまが安心してアクティビティを楽しめる環境づくりに取り組んでまいります。



1988年より、国立公園および世界自然遺産エリアをフィールドに、野生動物対策や森づくり、国立公園管理などの活動に取り組んできた私たちのノウハウは、ありがたいことに多方面から注目をいただいています。

そうしたニーズを受け、私たちは講演や視察対応の受け入れに積極的取り組み続け、2025年度は約100件の講演・視察対応を受け入れることができました。

講演の内容は、ヒグマなどの野生動物対策をはじめ、森づくり活動や国立公園の適正利用に関するものなど、多岐にわたります。対象も、町民などの一般講演に加え、野外業務従事者、警察関係者、行政関係者など、幅広く及んでいます。近年では、各地で相次ぐクマ被害を背景に、ヒグマに関する講演依頼が急増しています。講演では、

は、ヒグマの生態や知床におけるヒグマ対策、遭遇回避などを中心とした内容を扱うことが多く、クマスプレーの試射体験や遭遇時の対応方法、痕跡の探し方など、野外をフィールドとした実践的な研修を実施することもあります。

知床財団の使命には、「常に先駆者であり続ける」という言葉が掲げられており、私たちはその理念を大切にしながら活動を続けています。知床というフィールドを通して得られた知見や研究成果を、地域内にとどめるのではなく、他地域へ還元し、広く社会に役立てていきたいと考えています。

私たちだからこそ伝えられる現場の臨場感や、積み重ねてきた経験・思いがあります。より多くの方にその思いを届けるためにも、常に世の中の動向を注視し、多様な取り組みに積極的に挑戦し



しれとこ100平方メートル運動地での実習受け入れ(左) 近隣地域でのヒグマ講演会(右)

ながら、今後も更なる知見を蓄積していきたいと考えています。

収益事業係が目指すもの

知床財団は、設立30周年となった2019年を機に、その後の10年間の具体的な施策「10年プロジェクト」を定めました。その中で私たちは、「国立公園・世界自然遺産地域の保護と利用の調和の実現」、「野生動物と折り合いをつけていく地域社会の実現」、「しれとこ100平方メートル運動の推進」、「自主・自立の旗を立てる」という4つのテーマを掲げています。

このたび、収益事業係が新設され、10年プロジェクトに掲げた目標の一つが、大きな一歩を踏み出しました。

今後は、収益事業の売り上げが、知床財団の経常収益全体の三分の一を占める状態にすること、そして講演・研修対応は現状の約2倍に拡大させることが目標です。

新戦力の収益事業係に、応援よろしく願います！